

企業の財務会計情報と管理会計情報の融合

清松 敏雄 経営情報学部 准教授

多摩大学教員サイト URL <http://www.tama.ac.jp/guide/teacher/kiyomatsu.html>

キーワード

経営分析 財務諸表分析

概要

近年、財管一致、制管一致の進化が推奨されてきているが、財務会計情報と管理会計情報を融合させるのは容易なことではない。財務会計情報は、主として企業外部者に対する開示のために作成される一方で、管理会計情報は、企業内部における意思決定や業績評価に用いるために作成され、両者の目的が異なっている以上、必要な情報に相違があるからである。その一方で、少しでも効率的に両者の情報を作成するために、財務会計情報の作成の過程で収集された情報を管理会計用に用いたり、逆に、管理会計情報の作成の過程で収集された情報を財務会計用に用いたりすることができれば、その方が望ましい。ただし、現実には、効率的に両者を作成しようと試みるが故に、最終的に作成される情報（特に管理会計情報）が歪んでしまうこともある。つまり、インプットされる情報の取得や整理を効率化するプロセスで、最善の情報ではなく次善の情報を用いるようになってしまい、結果的に作成される情報が歪んでいることが多いのである。

本研究室では、財管一致を会社の置かれた状況に応じて適切なレベルで進め、企業価値の向上に寄与できるようにするための活動を行っていく。

利用・用途

応用分野

会計情報の応用分野は多岐にわたっているが、上記のように、本研究室では財務会計情報と管理会計情報の双方の融合した活用を模索している。これは、すでに実務上は試行錯誤が繰り返されてきたものであるが、作業負担を考慮しつつ、財務会計情報を適正に作成し、かつ、管理会計情報を意思決定に有用な内容とすることはなかなか難しい。しかし、ITの発達により精度の向上は従来よりも容易になってきており、個別ベースだけでなく連結ベースでも両者を融合している事例もある。このように、現実の企業経営に適用可能な形式で落とし込むことが応用分野といえる。

関連論文・著書

1. 「わが国上場企業における財管一致に関する調査に向けて」多摩大学『経営情報研究』No.19、2015年2月
2. 「わが国上場企業における財管一致に関する調査」多摩大学『経営情報研究』No.21、2017年2月

